

2014年 夏 号

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

HEARTFUL

はーとふる

特集
地域に活躍のステージを用意する

第2回

ワンコインで創る住民の輪

東京・国立市 国立富士見台団地―『居酒屋さんどう』

連載 市民活動を楽しくする虎の巻

みんなが楽しく納得できる会議を創る!!

被災地レポート「わすれない、いつまでも」

第1回 被災地の現状と支援のあり方

明社活動実践レポート／高知県・南国明社

地元高校生とともに取り組む明社活動

■全国明社が新体制を発表 ― 砂川敏文氏が理事長に就任

理事長挨拶

このたび理事長を拝命いたしました砂川敏文です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2010年までの3期12年間の帯広市長在任中は、「市民と協働のまちづくり」を進めるとの考えから、いろいろな市民活動団体の方々とお付き合いをさせていただきました。

その中で明るい社会づくり運動の皆さんの活動はたいへん印象に残るものでした。

・特定の主張を押し付けることなく、

・自らの住む地域社会を明るく心地よい、安全で安心して住み続けられる地域にすると

いう多くの市民が共有できる目標に向かって、

・日常生活の中で肩がこらずにできる幅広い事柄を、自主的に選びあるいは発案し、周囲の多くの人にも呼び

掛けながら進める、

という明社の在り方は、地域社会の中で大きな信頼を得ており、さらなる発展の可能性を持ち、よりよい地域づく

りに大きな役割を果たすと考えています。

明るい社会づくり運動は提唱者の熱い思いを受けてスタートして以来45年、たゆまぬ歩みを続ける中で、組織の在り方や会員の意識など曲折や変遷があったという歴史的な経過を踏まえて現在の形があります。そして、全国の現場で多彩なボランティア活動が地域の実情に応じて展開されています。

時間の経過や地域現場の違いにかかわらず変わらないのは会員の皆さんの

・「人の役に立つことがうれしい、人の笑顔を見ることが楽しい」という思いと、

・「そうした実践を続けることで、自己の人間性も成長していく」という確信

ではないでしょうか。

今後もそのような気持ち、願いを大切に、全国各地で活発な楽しい明社運動が展開できるよう微力を尽く

したいと考えていますので、ご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成26年度 役員一覧

理 事 長	砂川敏文	※は新任
常務理事	沼田壽雄	
理 事	浅本正孝、片桐俊晴、阪本章人、佐藤 榮、佐藤武男※、城塚和江※、添田佳伸、永原伸一郎、萩谷岩央、廣瀬訓子、細井利江※、松原久美子、丸本大	
監 事	中村陽一、槇ひさ恵※	

■会員としてご協力ください

明るい社会づくり運動(全国明社)は、都道府県・地区明社を支援するために各種事業を展開しています。その基盤となる資金は会員の皆様に支えていただいています。全国明社の事業にご賛同いただき、ご入会ください。

【会員の種類】 ◇運営会員 年間1口 10,000円

◇賛助会員 個人：年間1口 3,000円 / 団体：年間1口 10,000円

※賛助会員は総会での議決権を持ちません。ご入会のお申し込みには「払込取扱票」が必要です。全国明社事務局までご連絡ください。

特定非営利活動法人 明るい社会づくり運動

第14回 通常総会(平成26年度)報告〈概要〉

※詳細内容は、ホームページでご覧いただけます。

http://www.meisha.jp

日時／平成26年6月14日(土) 午後1時～3時

場所／ホテルローズガーデン新宿(東京都新宿区西新宿8-1-3)

■平成25年度収支計算書〈平成25年4月1日～平成26年3月31日〉

科 目	金額(単位：円)
I 経常収入の部	
1 会費収入	5,259,000
2 事業収入	616,000
3 補助金収入	10,500,000
4 寄付金収入	3,388,645
5 雑収入	113,617
経常収入合計(A)	19,877,262
II 経常支出の部	
1 事業費	
・ネットワーク推進事業費1(全国都道府県会議)	2,470,075
・ネットワーク推進事業費2(明社ミーティング)	377,388
・ネットワーク推進事業費3(講師派遣と相談サービス)	1,350,971
・ネットワーク推進事業費4(諸団体との連携)	0
・広報事業費1(機関誌)	3,552,221
・広報事業費2(WEB)	1,127,128
・広報事業費3(広報ツール)	1,089,625
・調査・研究事業費	2,805,830
・地域協働事業費	128,730
・明社レンジャー事業費	447,739
・集会事業費1(全国集会)	249,933
・災害支援事業費1(ボランティア活動)	1,783,112
・災害支援事業費2(植樹活動)	1,467,340
・災害支援事業費3	0
・事業人件費	0
・事業費合計	16,850,092
2 管理費	5,038,843
・管理費合計	5,038,843
経常支出合計(B)	21,888,935
経常収支差額(A)－(B)	▲2,011,673
III その他資金収入の部	
・その他資金収入合計(C)	0
IV その他資金支出の部	
その他資金支出合計(D)	0
当期収支差額(A)－(B)＋(C)－(D)	▲2,011,673
前期繰越収支差額(E)	78,662,292
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)－(D)＋(E)	76,650,619
V 正味財産増加の部	
増加額合計(F)	▲2,011,673
VI 正味財産減少の部	
減少額合計(G)	0
当期正味財産増加額(F)－(G)	▲2,011,673
前期繰越正味財産額	128,682,292
当期正味財産合計	126,670,619

■監事の選任

退任／浅井平三 ※任期満了
再任／中村陽一 新任／槇ひさ恵

■理事の報告

退任／槇ひさ恵、福永正三、小田切秋子、木山啓子、ホアン・マシア、
本多シゲ子、松村銀子、山本行恭 ※任期満了
新任／佐藤武男、細井利江、城塚和江

■平成26年度事業計画

I 事業実施の方針

提唱45周年を迎える今年度は、「提唱45周年 感動 感激 感謝 全国集会 in 京都」を同記念事業として位置付け、提唱の理念を確認し、情報交換並びに草の根運動に関する研鑽等を行う。

また、昨年度に引き続き「全国都道府県会議」を開催し、情報交換や討議を通して、本運動の方向性や事業のあり方を共有し、より一層の繋がりを図るものとする。

東日本大震災の復興については、被災地のニーズを収集し、都道府県・地区明社と連携し、時機に合った支援活動を行う。

なお、提唱50周年に向けて、今年度から準備を開始する。

1. ネットワーク推進事業
①全国都道府県会議 ②明社ミーティング
③講師派遣と相談サービス ④諸団体との連携
2. 広報事業
①機関誌 ②WEB ③広報ツール
3. 調査・研究事業
①明社志民力レッシェ ②地区明社の情報収集
4. 地域協働事業
5. 明社レンジャー事業
6. 集会事業
7. 災害支援事業
①ボランティア活動 ②植樹活動 ③緊急援助活動

■平成26年度収支予算書〈平成26年4月1日～平成27年3月31日〉

科 目	金額(単位：円)
I 経常収入の部	
1 会費収入	5,550,000
2 事業収入	5,765,000
3 補助金収入	9,200,000
4 寄付金収入	200,000
5 雑収入	35,000
6 前期繰越金からの繰入	15,055,000
7 子ども支援基金からの繰入	2,055,919
8 桜苗基金からの繰入	4,607,189
経常収入合計(A)	42,468,108
II 経常支出の部	
1 事業費	
・ネットワーク推進事業費1(全国都道府県会議)	4,020,000
・ネットワーク推進事業費2(明社ミーティング)	1,385,000
・ネットワーク推進事業費3(講師派遣と相談サービス)	1,750,000
・ネットワーク推進事業費4(諸団体との連携)	200,000
・広報事業費1(機関誌)	4,100,000
・広報事業費2(WEB)	1,300,000
・広報事業費3(広報ツール)	1,150,000
・調査・研究事業費	2,760,000
・地域協働事業費	600,000
・明社レンジャー事業費	800,000
・集会事業費1(全国集会)	9,010,000
・災害支援事業費1(ボランティア活動)	4,975,919
・災害支援事業費2(植樹活動)	4,607,189
・災害支援事業費3(緊急援助活動)	100,000
・事業人件費	100,000
・事業費合計	36,858,108
2 管理費	
・管理費	5,610,000
・管理費合計	5,610,000
経常支出合計(B)	42,468,108
経常収支差額(A)－(B)	0
支出合計	42,468,108
III その他資金収入の部	
・その他資金収入合計(C)	0
IV その他資金支出の部	
その他資金支出合計(D)	54,932,511
当期収支差額(A)－(B)＋(C)－(D)	▲54,932,511
前期繰越収支差額(E)	54,932,511
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)－(D)＋(E)	0

◆石原慎太郎前会長に記念品を贈呈

全国明社の槇ひさ恵理事長と沼田壽雄常務理事は、3月18日、衆議院第二議員会館に石原慎太郎前会長を訪ね、長年の会長職への謝意を表し、記念の品『本運動提唱者・庭野日敬師と石原前会長の写真』を贈呈しました。

石原前会長は「庭野先生にはとても可愛がっていただきました。政務に追われ、会長の役目を十分に果たせなかったことを申し訳なく思います。今後私も私にできることは、何でも言ってください。これからも庭野先生の願いの実現のために頑張ってください」と語りました。

沼田常務理事が協力団体の庭野日鏡会長からの記念品「サヌカイト」を贈呈。「サヌカイト」は香川県だけに産出する自然石で、木槌で叩くと神秘的で澄んだ美しい音を奏でるところから、地元では「カンカン石」と呼ばれているもの。

石原前会長は「サヌカイト」に感激。神棚の横に置くと、自ら叩き、「本当に心が癒される音だ」と聴き入っていました。



第2回

ワンコインで創る住民の輪

東京・国立市 国立富士見台団地—『居酒屋きんぞう』



500円のワンコインで住民の日常を変えてしまった団地があります。約2100所帯が暮らす東京都国立市の国立富士見台団地です。集会所を居酒屋にしたふれあい事業の取り組みは、全国各地のモデルとなり、視察や調査に訪れる人が絶えません。毎月第三金曜の夜、参加費500円で開店する『居酒屋きんぞう』取材しました。

「はい！いらつしゃいませ！」
「あつ、どうも。ご無沙汰しています」
「西崎さん！お久しぶりね。」

元氣そうで、よかったわ！
第三金曜日の午後6時30分、国立富士見台第二団地の集会所に『居酒屋きんぞう』の行燈が灯されると、次から次に住民が集まってきました。こやかに言葉を交わす参加者は、皆様にグラスとお皿を持参。受付で500円を支払うと、午後9時の閉店時間まで、思う存分、飲んで食べて歌って楽しむことができます。

この日のメニューは、飲み物(清酒、焼酎、ビール、ウーロン茶)、焼うどん、ちらし寿司、ウインナーと野菜の鉄板焼き、鰯のマリネ、湯豆腐、枝豆、梅干、漬物と差し入れの泡盛、ワインなど…。井上怜史店長(国立富士見台団地自治会副会長)が開店挨拶を行うと、各自好きなお酒や食べ物を取って歓談が始まりました。

きつかけは自治会長の一言

『居酒屋きんぞう』のオープンは平成21年5月15日。初代店長の藤野測さんが開店までの経緯と効果を話してくださいました。

初代店長を務めた 藤野 測さん(77)
多和田栄治自治会長が「ヨーロッパは団地のなかに居酒屋がある。この団地でもできないかなあ」と発した言葉に、当時文化



土的。だれ一人気になる人がいないことも自慢できますね。

驚くのは、国立市の佐藤二夫市長の手帳にも『居酒屋きんぞう』の予定が入っていることです。佐藤市長は何回か来られましたが、一市民として楽しんで行かれました。今日はこの団地から立川市の都営住宅に引越した方も久しぶりに来てくださってうれしいです。

転居先の立川市から参加した

西崎好一さん(81)

ここには最初から来ていたよ。
毎月、飲んで好きなことが言えるので楽しんでいたんだ。この団地には47年7か月の間、住んでいたけど、今日集っている人の8割はここで出会った人たち。『居酒屋きんぞう』のおかげで、人間関係が何十倍も広がったよ。



明社の理想の姿

『居酒屋きんぞう』には、毎回各地からの視察者や訪問者も参加します。この日も市内泉団地の女性3人が視察に訪れ、「この雰囲気羨ましい。私たちのエリアでも取り組んでみたい」と、運営のノウハウを熱心に聞いていました。

昭和40年の設立以来、国立富士見台団地に住む全国明社理事で明るい社会をつくる国立市民の会事務局長の丸本大さんに『居酒屋きんぞう』の魅力を尋ねました。

紙一枚に簡潔にまとめあげます。スタートから携わっているお二人にご苦労話を伺いました。
国立富士見台団地自治会事務局長
秋元洋子さん
自治会会計とは別の独立採算で運営していますので、毎回綱渡りのような経営です。次回の段取りを打ち合わせる献立会議ができるメンバーが揃っているのが強みですね。

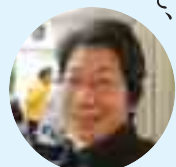


私たちの取り組みが各地の団地にも広がっているのは成功の証でしょうが、もともと心意気のよい土壌があったのだと思います。国立富士見台団地は第一から第三までの棟が飛び地になっています。中間地点の第二団地の集会所で開店したこともよかったことですね。
20時からのカラオケが始まると片付けも始まります。皆さんも手伝ってくれるのですが、準備と後片付けをきちんとすることが継続の秘訣ですね。

国立富士見台団地自治会副会長

清水瑞恵さん

私は60歳まで働いていたので、団地の方とはおつきあいがありませんでした。『居酒屋きんぞう』のおかげで、いまでは沢山の方と交流しています。他の団地の女性からは「居酒屋は男性が乱れるからイヤー」という声を聞きますが、この地域はモラルがあつて紳



転居先からもやって来る

『居酒屋きんぞう』のスタッフは9人で、女性陣は明るく気さくな方々ばかりです。自治会事務局長の秋元洋子さんは、来る人を満面の笑顔で迎え入れます。帳簿と分担表を作成する清水瑞恵さんは自治会副会長。毎回スタッフの役割を

部担当の副会長だった私がすぐに反応しなかったのがきっかけだね。オープンの日が第三金曜日だったので、店の屋号を『居酒屋きんぞう』と決めたんだ。気軽に参加してもらうために参加費は500円玉ワンコイン。集会所でささやかな開店を計画したのだが、スタッフが用意したお酒や焼きそばに加え、沢山の差し入れがあり、32人のご来店で美味しく和やかな居酒屋となったんだよ。
地元老人会の「さくら会」から拝借したカラオケ機器のおかげで、会場は大いに盛り上がり、惜しまれながら閉店時間となったんだ。すると、「またやろうよ」「来月も第三金曜日に」という声が沸き起こり、2回目の『居酒屋きんぞう』が翌月に決定。以来、今年で6年目を迎えることになったのさ。
ワンコインの交流のおかげで新しい人が自治会の役員になってくれた。「固いことは切ない。こんな温かい雰囲気なら役員をやってもいい」と自治会の役員が「新されたんだ。とくに女性陣に器用な人が多くて、自治会活動にすぐくプラスになっているよ。」

市民活動を楽しむ虎の巻!

連載

認定NPO法人 ハンズオン埼玉

吉田知津子 副代表理事に聴く! ②

みんなが楽しく納得できる会議を創る!!

楽しいアイデアがどんどん湧いてくる!

その秘密はみんなが楽しくて納得できる会議にあった!

会議を進行する立場の方、説得から納得へと会議を創りたい方必読です!



写真提供 認定NPO法人 ハンズオン埼玉

会議をゆるめてみよう!
ではどのように会議をゆるめるか。私たちがファシリテーター(※)としてみなさんの会議やお話の場に参加する場合、たとえばちゃぶ台を背

多くの会議は意志や立場が強い人の意見が通りがちですよね。たとえば、強い意見を持つ人が「今日はみんなでダリアを生けるぞ」と決めた気持ちで会議に来ると、「えー」と思いながら、でもあの人は会議に出る回数が多いし、事務局長だし...と周りの人は黙っちゃうんです。それをちよとしたゆるめる工夫で「私はラベンダー持ってきました!」「今日は緑の葉っぱを持ってきましたよ」とみんなが言えるようになり、一緒に考えることができる。すると思いもよらない花束が出来上がって、みんなが嬉しくなります。いかにそういう場を作れるか、会議をゆるめることができるかが、みんなが納得できる会議づくりのポイントだと思います。

思いもよらない花束が出来上がる会議づくり

※【ファシリテーター】とは 会議やミーティング、シンポジウムなどにおいて、議論に対して中立な立場を保ち、議論をスムーズに調整しながら、合意形成や相互理解に向けて話し合いに介入する役割を担う人。

自分のためにやっている

雨天にも関わらず、この日の参加者は40人。目標30人を大きくクリアしたなかには、新しく入居した佐藤但さん(57)の姿もありました。自宅が新築中のため、国立富士見台団地には半年間の仮住まいですが、自治会の副会長に挨拶に行ったときに『居酒屋きんぞう』の案内を受けたとのことでした。

視察の一行に新入居者と初参加の方が数人いま

設立以来、国立富士見台団地に住む

全国明社理事 丸本 大さん(77)

ワンコインで楽しめる居酒屋はどこにもありませんよ。この手軽さが自由な雰囲気をもたらし、飲みながら心を開かせていくのだと思います。ワンコインで運営できるのもスタッフの努力の賜物です。井上店長は毎月200か所ある団地階の掲示板に開催案内のチラシを貼り付けに行くのですから、ほんとうに頭が下がります。市民が自ら手をかけて、地域社会のために貢献するのは明社の理想の姿です。

私もかつては仕事一途で、団地のつきあいがありませんでした。いまは自治会の副会長や老人会「さくらの会」の会長をしています。『居酒屋きんぞう』を活用して、独居老人の孤独死防止に役立てたいと願っています。



したが、すぐに馴染んでしまう光景は、まるで手品を見ているかのようなものでした。21時の閉店と同時に慣れた手つきで後片付けをする井上店長に種明かしを聞いてみると...

国立富士見台団地自治会副会長

店長 井上 怜史さん(72)

自宅と会社の往復のみで、国立の街や団地内のこと、団地の人たちの顔すら知らずに過ごしてきました。元来、お酒に目がない私が自治会ニュースに載った『居酒屋きんぞう』のお知らせを見逃すはずもなく、早速出かけたのが運の尽きでした。スタッフになって、団地や近所のあちこちで挨拶されることが多くなったのには驚きました。

「人と人との輪」が広がって「人と人との和」になっていけばいいなと思っています。えつ、『居酒屋きんぞう』の種明かしですか。自分が飲みたいだけです。人のためじゃない。自分のためにやっている。私が楽しければ、それでいいんですよ。でも、今日はあなたが一番馴染んでいますね。来月もお待ちしておりますよ(笑)。



取材を終えて

自宅から近いこともあり「子連れでもいいですか?」って気軽に参加しちゃいました。皆さん楽しそうにテキパキと準備を進めていて、メニューを拝見すると春爛漫のちらし寿司に湯豆腐などなど。季節に合わせたメニューを心がけているそうで、この日はあいにくの冷たい雨、冷奴にするはずの豆腐を急きょ湯豆腐に変更されたとのこと。その臨機応変も素晴らしいです。

皆さんが孫のようにかわいがってくださり、1歳3か月の息子もすっかり楽しんだようです。居酒屋ではありますが、若い方が子連れで参加しても絶対楽しいと思います。次世代、次々世代への展開もとても楽しみな住民の輪ですね。

全国明社理事 松原久美子



この日訪れた視察の一行と話す井上店長(右)